



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

病院長就任のご挨拶

病院長
戸谷 収二



2023年8月1日付で山口 晃前院長の後任として病院長に就任致しました戸谷収二でございます。

新潟病院は1972年4月に日本歯科大学新潟歯学部附属病院として開院しました。1981年には附属医科病院が併設され、歯科・医科併せて100床を持つ大学附属病院となりました。その後、2021年10月1日に両病院を統合し「日本歯科大学新潟病院」として歯科部門、医科部門として外来は今まで通り、入院は混合病棟として現在に至っています。

過去3年にわたり猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が、今年の5月に「5類感染症」へと移行され、ポストコロナに向け、大きく変わろうとしています。その社会変化の中でも、当院が医療を提供している多くの患者さんは高齢者であり、重症化や基礎疾患の悪化などのリスクを有しているため、我々医療従事者は引き続き基本的な感染対策を徹底し、患者さんにご家族にとって安心・安全な医療を提供することが必要であると考えています。

さらに今後、医療を取り巻く環境は大きく変化し、働き方改革や少子高齢化の加速に伴う労働力不足、国際紛争状況やそれに伴う材料不足と物価上昇など、解決すべき問題が数多く存在します。また、2024年に施行される「医師の働き方改革」と「診療報酬・介護報酬の同時改定」に向けた準備が求められます。制限された中でも従来の質の高い医療を提供できるよう体制を整えてまいります。また医師・歯科医師のみではなく、全職員の業務の質向上や効率化、個々のスキルアップ、多様な働き方など、職員一人ひとりの働き方を整えることで、快適な職場となることを目指したいと思います。

新潟病院の理念でもある患者様に信頼され、安心・安全で良質な医療を提供するため職員一同、精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



もの忘れ外来開設にあたって

● 高齢者医療学
教授

道川 誠



◆はじめに

この度2023年9月5日に、日本歯科大学新潟病院に新たに「もの忘れ外来」を開設することになりました。超高齢社会に突入した我が国において、認知症患者数は増加の一途をたどり、2025年には65歳以上（高齢者）の認知症患者数は約700万人に達するとされます（内閣府）。新潟病院は、歯科を主体とする病院であります。現在まで医科・歯科連携病院として地域医療に貢献してきたという歴史があります。また、初診から医科と歯科が一緒に担当する並列的連携が基本となっており、歯科と医科の垣根が低いのを特色としています。

◆認知症と口腔について

私は長年、アルツハイマー病研究に携わり、また認知症の臨床に従事してまいりました。なかでもアルツハイマー病を含む認知症発症に口腔疾患（歯周病、歯の欠損、咀嚼機能障害）が大きくかわることを解明し、口腔疾患が認知症の危険因子・増悪因子となりえることを明らかにしてまいりました。その意味で、歯科大学の附属病院に認知症外来を開設する意義は、単に認知症の診療部門ができたということにとどまらないと考えます。医科と歯科の有機的かつ緊密な連携がはかれる当院において、認知症の予防や進行抑止に口腔疾患の予防・治療介入の観点から貢献できる体制ができたということであると考えております。

◆もの忘れ外来について

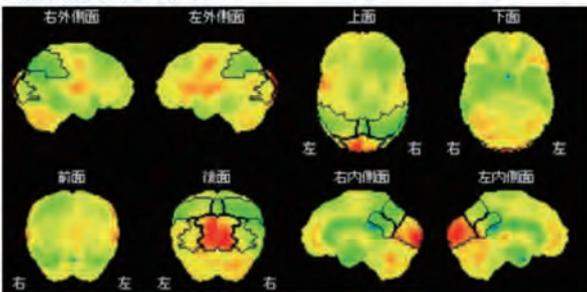
幸い、当院には、MRIの他、脳血流SPECT（写真）やDATスキャン検査、MIBG心筋シンチグラフィ検査など、認知症の鑑別診断に必要な各種検査機器が設置されています。これらの検査を必要に応じて実施することにより、認知症をより正確に診断でき、良質な医療をお届けできるものと考えております。また大学病院としての歯科医師や医療関係職種の教員・人材育成の使命も担っております。歯科医師は、日常的に認知症の方の診療を行う必要があります。そのため、認知症患者への接し方や歯科治療を行う上での注意点などをよく知っておくことが大切です。教育機関としてこうした機会を提供することも当院に認知症外来を設置する意義があるではないかと思っております。当院に開設されます「もの忘れ外来」の発展、充実のため、皆様方のご理解、ご協力、ならびにあたたかなご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

◆脳血流SPECT検査 アルツハイマー型認知症

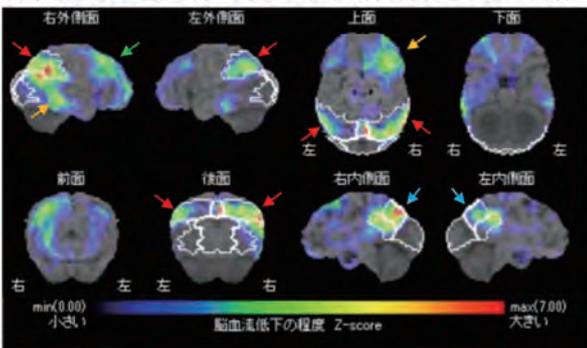
脳血流シンチグラフィは、脳の血流を測定する検査です。脳の血流低下が、脳のどの部位で起こるかは、認知症をきたす疾患によって特徴があり、早期発見や認知症の鑑別診断に役立てることができます。そのため適切な治療薬の選択ができるほか、今後の進行予測や進行度の評価にも役立ちます。

紹介した症例は臨床症例の一部を紹介したもので、全ての症例が同様な結果を示すわけではありません。

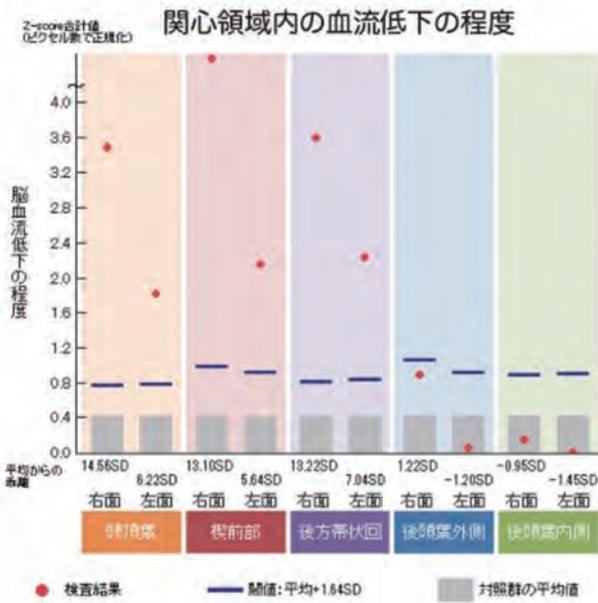
脳血流分布画像



健常高齢者の脳血流平均値よりも低い場所を示した画像



頭頂葉 (→) 側頭葉 (⇨) 楔前部・後部帯状回 (⇩) の血流低下。
進行例では前頭葉 (⇨) の血流も低下します。



認知症の原因と脳血流SPECT検査について

監修：東京医科大学高齢総合医学分野主任教授清水聡一郎先生 症例提供：東京医科大学高齢総合医学分野

こんな症状、気になりませんか？



- 診療日時 ●
毎週火曜日 9:30~11:30
(完全予約制)
- ご予約・お問い合わせ ●
TEL 025-211-8257
(地域医療連携室直通)



ムロンジェイ

MRONJ外来の近況報告

● 口腔外科・MRONJ外来医長

小林英三郎



◆はじめに ～骨吸収抑制薬の変遷～

以前は、骨粗鬆症には経口薬、悪性腫瘍の骨病変には注射薬というように剤型の違いが重視されていましたが、骨粗鬆症に対するビスホスホネート注射薬も上市されていることから、骨粗鬆症の治療は「低用量」、悪性腫瘍の治療は「高用量」と分類されています(本邦2023年ポジションペーパー)。

骨粗鬆症に使用される低用量ビスホスホネート製剤は投与間隔の長い(1週間、1か月あるいは1年)製剤も開発され、服薬アドヒアランスの観点で経口から経静脈製剤への変更が散見されます。また、ビスホスホネート製剤からデノスマブ製剤への切り替え症例も増加しています。さらに近年、骨形成促進作用と骨吸収抑制作用のデュアルエフェクトを有する抗スクレロチン抗体のロモソズマブでも顎骨壊死が報告されており、顎骨壊死に関連する薬剤およびその服薬形態は多様化してきているため、問診で聞き漏れることが無いようにより注意が必要と考えます。

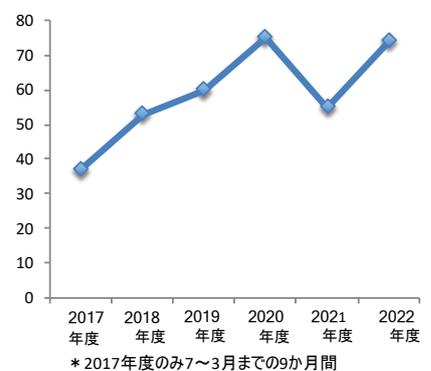
◆受診患者について

日本歯科大学新潟病院MRONJ(ムロンジェイ)外来は2017年7月1日に新規開設され、お陰様で今年の6月31日で6年経過致しました。そこで近況報告をさせて頂きたいと思えます。

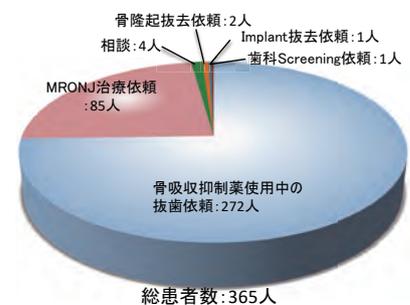
2017年7月1日から2023年6月31日までの6年間にMRONJ外来を受診した初診患者総数は、365名で、1年平均約60人、月平均5人となっております。365人中紹介患者は361人(紹介率98.9%)で、年度別の初診患者数の推移を(図1)に示します。継時的に初診患者は増加傾向を示し、2020年度は75名となりました。しかし2021年度に新型コロナウイルス感染症患者の増加に伴い患者数の減少を認めましたが、2022年度には2020年度とほぼ同等となっております。

また、紹介内容を(図2)に示します。365人中、骨吸収抑制薬使用中の抜歯依頼が272人(74.5%)と多くを占め、MRONJの治療依頼が85人(23.2%)、相談が4人、骨隆起除去依頼が2人、Implant除去依頼および歯科Screening依頼がそれぞれ1人となっております。

新潟病院・口腔外科でもMRONJの治療を行っており、口腔外科宛にもMRONJ患者は紹介受診されています。



● 年度別の初診患者数(図1)



● 紹介内容(図2)

◆MRONJ患者の治療方針

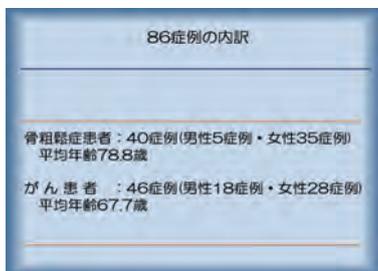
MRONJ外来では、開設当時からステージに関わらず積極的な外科的治療を勧める方針としてきました。本邦の2016年ポジションペーパーでは、ステージ2から外科的治療を勧めていましたが、2023年最新版ポジションペーパーでは治療方針が見直された結果、ステージに関わらず外科的治療を勧める方向に変わり、世界的にも外科的治療の有効性を示すエビデンスが集積してきています。

しかし、患者背景として骨粗鬆症患者では高齢者が多く基礎疾患などにより手術が困難な場合も少なくなく、またがん患者では、全身状態、がんの状態、生命予後、術後のQOLを考慮する必要がありますので、MRONJ外来では患者の全身状態、基礎疾患、がんの状態、生命予後、術後のQOLを考慮し、手術の有益性が上回ると判断した場合に外科的治療を選択するようにしています。

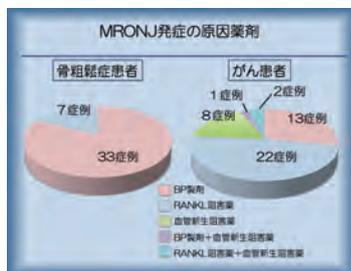
◆MRONJ治療結果

2017年7月1日から2023年6月31日までの6年間にMRONJ外来を受診したMRONJ患者は85人でしたが、同時期に口腔外科を受診したMRONJ患者は219人で、MRONJ患者の総数は、304人となっております。

そこで2年以上経過観察可能であった症例を対象に検討を行ってみました。対象患者は2017年7月1日から2020年3月31日までの2年9か月間のMRONJ患者86症例91顎(5人が上下顎発症)です(図3)。原因薬剤を図4に示します。積極的に外科的治療を行った結果、91顎の内68顎に対して外科的手術を行い(74.7%)、57顎(83.8%)に寛解を認め、外科的治療の有用性が示唆された結果となりました(図5)。外科的治療で寛解に至らなかった症例については、切除範囲の再検討が必要と考えています。



●86症例の内訳(図3)



●原因薬剤(図4)



●寛解率(図5)

◆骨吸収抑制薬の休薬について

抜歯等の歯槽骨に対する歯科口腔外科手術の際に骨吸収抑制薬を休薬するか否かに関してはいまだ議論的ですが、本邦の2023年ポジションペーパーでは休薬の有用性を示すエビデンスはないことから、「原則として抜歯時に休薬しないことを提案する」としています。

MRONJ外来でも、開設当時より抜歯を含む歯科口腔外科手術の際には骨吸収抑制薬の休薬はしない方針としております。ただし高容量の骨吸収抑制薬使用中のMRONJ治療の場合、主治医へ対診し可能であれば休薬を検討しています。

◆おわりに

今後も、もしお困りの症例がございましたら、遠慮なくご紹介いただけましたら幸いに存じます。ご相談だけでも結構ですので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



新潟病院・在宅ケア新潟クリニック 主な診療スタッフ

<病院長> 戸谷 収二 <副院長> 大越 章吾、佐藤 聡、田中 彰

●診療科	●科長	●医長	●特殊外来	●特殊外来医長
総合診療科	海老原 隆	関 秀明 水橋 亮	白い歯外来	海老原 隆
口腔外科	戸谷 収二	小林英三郎	スポーツ歯科外来	渥美陽二郎
歯科麻酔・全身管理科	大橋 誠	—	いき息さわやか外来	高塩 智子
小児歯科	三瓶 伸也	—	あごの関節・歯ざりり外来	水橋 史
矯正歯科	小林さくら子	—	口のかわき治療外来	戸谷 収二
放射線科	小椋 一朗	—	歯科アレルギー治療外来	小根山隆浩
訪問歯科口腔ケア科	白野 美和	—	歯科鎮静リラックス外来	大橋 誠
口腔インプラント科	廣安 一彦	—	顎のかたち・咬み合わせ外来	水谷 太尊
内科	大越 章吾	—	M R O N J 外来	小林英三郎
外科	大竹 雅広	—	歯の細胞バンク外来	—
耳鼻咽喉科	佐藤雄一郎	—	禁煙外来	大越 章吾
			もの忘れ外来	道川 誠
●センター		●センター長		●室長
長寿医歯連携医療センター		大越 章吾	地域医療連携室	小根山隆浩
障害児・者歯科センター		三瓶 伸也		
睡眠歯科センター		猪子 芳美	●院長	●科長
口腔ケア機能管理センター		吉岡 裕雄	在宅ケア新潟クリニック	田中 彰 高田 正典

■ 地域医療連携室よりお知らせ

● 歯科部門の初診受付時間について

【診療時間】

曜日	歯科	医科
月～金	9:00～17:00 (火)、(木)のみ小児・矯正歯科は18:00まで	9:00～11:30 (午後休診)

【初診受付時間】

	歯科	医科
事前予約あり	9:00～11:30、14:00～16:00	9:00～11:30 (午後休診)
事前予約なし	紹介状有の場合：9:00～16:00 紹介状無の場合：9:00～11:30	

【備考】

- ・土曜日は休診です。
- ・急患は随時対応いたします。
- ・FAXは9:00～16:30で受付けています(16:30以降は翌日対応)。
- ・電話は14:00～16:30で受付けています(緊急時は随時対応)。

地域医療
連携室

TEL/025-211-8228(歯科)
025-211-8257(医科)
FAX/025-267-1546

編集
後記

■ 令和5年7月末日をもって前山口病院長が退任され、8月より戸谷新病院長になりましたので宜しくお申し上げます。また、9月より「もの忘れ外来」が開設されました。認知機能と口腔との関係も注目されていますので、こちらも宜しくお申し上げます。もう一つは、医科歯科連携が重要な顎骨壊死について、当院MRONJ(ムロンジェイ)外来の現状をお伝えしました。(小根山)



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol.49
2023.9.1

発行日/令和5年9月1日 発行人/戸谷 収二

〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8

TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(連携室直通)